

東白川村 美しい村づくり 委員会

第15回

- 場所：ふれあいサロン（神戸）
- 時期：平成29年6月26日 19:00～21:00
- 参加者：委員11名 ゲスト2名 行政5名
名古屋大学大学院環境学研究科 高野雅夫教授

今回も名古屋大学大学院より高野教授の出席および名古屋大学大学院生さんの出席のもと開催いたしました。

【田乃花咲くや祭】

主催者さんからイベント開催後の報告がありました。

（報告内容）

7月下旬から8月上旬にイベント映像完成予定で、村の夏祭りなどで配信が出来ればと考えている。また、稲の収穫祭なども検討しているが、まずは映像が出来上がってから考えていきたい。また、移住者として地域の方々との関わりが祭りを通してあり、地域の方との交流のきっかけとなった。

【郡上市石徹白地区視察】

名古屋大学大学院高野教授が以前、同地域にて小水力発電に携われたとのことで概略を話していただきました。

〈概略まとめ〉

（小水力発電）

石徹白地区の隣村が廃村になったことをきっかけに地域でNPO法人を立ち上げ、地域資源を使った小水力発電事業を行った。機械的なトラブルなどもあり、当初は順調にいかなかったものの、次第に軌道に乗り、全国から視察が

来るまでになった。しかし、石徹白は過疎化が進んでいて、地域には食事をするとところがない。小水力視察の対応のため、地域の女性たちが中心となり飲食を提供していくこととなった。

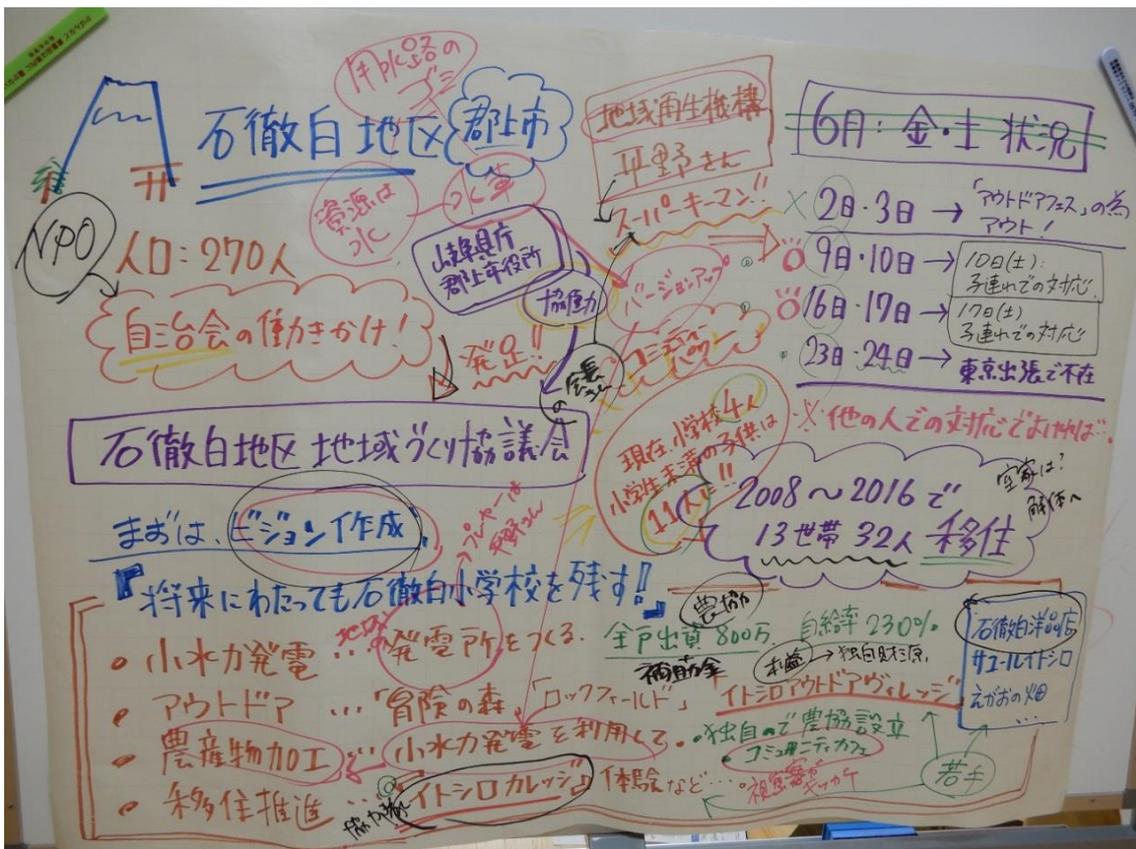
また、郡上市の計画にて地域づくり協議会が作られた。水車をより活発化させ石徹白全体を自給する運びとなり、平野さんがそこで係わることになった。水力発電を地域で作ったこと（コミュニティーパワー）に関しては平野さんが先駆者。実際、小さな発電では採算性はなく、50KW以上でないと採算性もとれない。補助を受けるためには農業協同組合（JAではない）をつくる必要がある。そうして地域全戸出資の団体を作り、補助金をうけ水力発電をつくったのが平成27年のこととなる。

利益が数百万円、農業振興費として使用用途を決められてはいるが、石徹白独自で自由に使えるお金が捻出できるのは自治区として有利。

（石徹白地区の移住者）

- ◇明確に目的が決まっているような人たちが移住している。
- ◇空き家利活用は難しい状況ではあるが移住者は増えており、子供の人数は増えている。
- ◇地域おこし協力隊がイトシロカレッジを運営し、地域で農産加工品が作られている。
- ◇移住した女性が石徹白洋品店を開いている。

高野教授からの概略を伺った感想として、地域活性化の活動主体は住民であり、その活動の起爆剤は地域住民が抱く危機感であり、その危機感の共有がカギとなる印象を受けました。



※石徹白地区事前学習

【集落あるき】

日時は7月16日(日) 13時で、案内者は田口勝司さんとなりました。
 集合場所は大明神地区の出会い橋で、ルートは出会い橋から子護神社、銭岩を
 予定しています。また、分校跡、営林署、水源等も検討しました。
 小中学校に案内し、参加者を募ります。

【名古屋大学大学院修士研修】(7月21日~23日)

高野教授より東白川村スタディツアーの説明がありました。
 (説明内容)

名古屋大学大学院より18名(学生、教授を含む)が来村。うちラオスの学
 生が2名来日し、その後、ラオスの村にも訪問する予定。現在、ラオスは経済
 発展の真っ只中であり、日本の昭和30年代とリンクする部分がある。日本は
 高度経済成長を経験し、現在に至っている。この両方を調査し、比較、考察す

る。集落あるきでは活気のある昭和30年代の暮らしと現在の暮らしを村の方からお聞きしたい。診療所の調査に関しては、ラオスの村にて診療所を建設予定があるため、村ではどのように診療所経営、そしてどういった思いで経営をしているのか、そして現在に至るまでどのようなことがあったか、また、現在予定している診療所の移転計画についても伺いたい。

〈ツアー予定〉

21日 午前 村の概略、午後 村内の森林（母樹林）

22日 集落あるき～陰地地区～（美しい村委員が同行）

→美しい村委員との懇親会では、Iターン者、Uターン者の移住の理由など、また現在の生活の生業を中心にお聞きしたい。

23日 午前 診療所について 午後 まとめワークショップ

【夏祭り】

出店内容について意見出しが行なわれました。

物販、ライブ、ドローン撮影映像、つちのこ（特大）、田乃花咲くイベント映像の放映など出ましたが、巨大ツチノコ案が有力となりました。

